9. 委員会活動成果の活用方策検討

9.1 活動目的

広報部会は、道路管理技術委員会の活動成果を道路管理者に提供するとともに、その成果の活用を図ることを目的とした活動を行っている。広報部会は、平成 19 年 9 月に「活動成果実用化部会」から「広報部会」に名称変更され、現在に至っている。

9.2 委員会における各部会の活動テーマの履歴

表 9.1 に本委員会がこれまでに取り組んできた活動テーマの履歴一覧表を示す。活動テーマは下記のように大きく２つに大別されるが、いずれも委員会意見に基づいて設定されてきたものである。

・気象や自然災害と道路の関係に焦点を当てたテーマ
　岩盤斜面や切土･盛土法面の崩壊，地震，台風等の集中豪雨，火山噴火，雪崩，地吹雪など
・道路構造物の長寿命化や維持管理手法を背景に選定されたテーマ
　橋梁，トンネルなど

道路管理技術委員会は、上記のような道路管理に関する技術を取り扱う部会として、「地盤部会」,「構造部会」,「雪氷部会」,「気象部会」の計４部会が設置されている。これに加え、活動成果の広報と成果の実用化を図る部会として「広報部会」が設置されており、講習活動や活動報告書の取りまとめ、委員会ホームページの構築・運用等に取り組んでいる。

活動成果については、平成 10 年から 3 年ごとに取りまとめ、令和 3 年度までに 8 冊の報告書を発刊している。本報告書はそれに続く令和 4 年度～6 年度までの 3 年間の活動をまとめた「その 9」報告書である。

なお、委員会では部会ごとの活動の他に、平成 16 年度に発生した新潟県中越地震を皮切りに、全国で発生した大規模な自然災害に対して現地調査団を派遣しており、報告書や報告写真集として取りまとめている。表 9.2 にはこれまでの派遣履歴を示すが、本報告書取りまとめの対象期間（令和 4 年度～6 年度）では、令和 6 年 能登半島地震に調査団を派遣しており、この調査報告について第 10 章に取りまとめている。

本章では、広報部会における活動報告として、委員会活動成果の活用方法の検討ならびに委員会ホームページの運営と内容の拡充について、次節以降に取りまとめた。

表 9.1　道路管理技術委員会における活動テーマの履歴一覧

部会	テーマ	報告書（その1）			報告書（その2）			報告書（その3）			報告書（その4）			報告書（その5）			報告書（その6）			報告書（その7）			報告書（その8）			報告書（その9）		
		H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
火山	火山噴火と道路被害想定				■	■	■	■	■																			
地盤	道路防災マップ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
	活断層と道路				■	■																						
	急崖斜面斜め写真管理・運用	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■														
	集中豪雨と都市道路				■	■																						
	雨量と斜面の不安定化				■	■	■																					
	道路施設の凍上対策・管理手法				■	■																						
	レーザーを用いた地形計測技術に関する調査						■	■																				
	岩盤斜面評価精度向上のための調査手法の検討							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■					
	レーザープロファイラーデータの利活用に関する検討																							■	■	■	■	
	最近の新技術の動向に関する検討（岩盤斜面）																											■
	降雨等と土砂災害の関係											■	■	■	■	■	■	■	■									
	降雨と盛土災害																		■	■	■	■	■	■				
	災害申請を行った比較的規模の大きい崩壊事例の土壌雨量指数等の検討																							■	■	■	■	■
構造	橋梁データベースの検討	■	■	■	■	■	■																					
	長大橋の耐震性能評価の検討							■	■	■	■																	
	構造物仕様の変遷											■	■															
	橋梁点検に関する技術向上 （塩害環境におけるコンクリート橋の再劣化）						■	■	■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	第三者被害予防に着目した点検・調査方法の検討(橋梁)																											■
	トンネルデータベース	■	■	■																								
	トンネル維持管理のための調査・検討 （北海道におけるNATMトンネルの維持管理） （北海道における変状と原因に着目したトンネル維持管理）	（健全度評価）			■	■	■	■	■	■	（補修方法など）					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
	北海道におけるトンネル補修対策工の留意事項																											■
H10～R4 道路・情報 R5～ 雪氷・気象	春志内トンネルの冬期事故対策	■	■	■	■																							
	吹雪災害の特徴と課題											■	■															
	吹雪による通行規制判断手法の検討													■	■	■												
	冬期路面管理データの活用に関する検討					■	■	■	■	■	■																	
	道路テレメータの活用											■	■							雪氷関連データの収集は継続								
	道路気象情報の高度化											■	■	■	■	■								↓				
	道路雪崩災害の実態と対策			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	□	□			
	道路雪崩災害に関する検討																									■	■	■
	暴風雪災害による影響と対策																■	■	■	■	■	■	■	□	□	■	■	■
	道路雪氷災害に関する検討																							■	■			
	地形性降雨による道路災害発生地域の検討																			■	■							
	気象情報利用ガイドの追補 （気象情報利用ガイドの活用、および気象災害対応向上に向けて）																							■	■	■	■	■
広報	委員会活動成果の活用方策検討							H30までは「広報WG」と「道路防災マップWG」に分かれていたが、R01よりこれらの名称を廃止し、「広報部会」に一体化。															■	■	■	■	■	■

表 9.2　災害現場への現地調査団の派遣履歴一覧

現　地　調　査　名	報告書（その3）			報告書（その4）			報告書（その5）			報告書（その6）			報告書（その7）			報告書（その9）		
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R04	R05	R06
平成16年　新潟県中越地震 現地調査	●																	
平成19年　新潟県中越沖地震 現地調査				●														
平成20年　岩手・宮城内陸地震 現地調査					●													
平成23年　東北地方太平洋沖地震 現地調査									●									
平成26年　北海道恵庭岳山麓豪雨災害 現地調査												●						
平成28年　台風10号による北海道豪雨災害 現地調査														●				
平成28年　熊本地震 現地調査 ※）													※					
令和6年　能登半島地震 現地調査 ※）																		※

※）報告写真集等は発刊せず、活動報告書（その7、その9）に掲載した。

9.3　委員会活動成果の活用方法の検討結果

道路管理技術委員会は、道路を常時良好な状態に保全し、適切に活用するための調査・研究を行い、その成果を道路管理者に提言することを主目的とした活動を行っている。広報部会の役割は、この委員会活動について道路管理者をはじめとした道路管理に関わる者に広く知ってもらい、成果の活用を促進することである。

これまで、活動講習会や委員会ホームページの利活用などを通して、道路管理者に対する本委員会の認知度を向上させる取り組みを行ってきたが、引き続き広報活動を行うとともに、新たな広報手段の検討も合わせて行う必要があると考え、令和 4 年度～6 年度の活動期間では以下のような検討を実施した。

①部会・WG 名称の見直し

②委員会ホームページへのアクセス性向上に関する検討

③活動成果の情報公開範囲の拡大に向けた検討

④委員会ホームページの内容拡充

9.3.1　部会・WG 名称の見直し

これまでのヒアリング等の結果では、国道の道路管理者である北海道開発局内での道路管理技術委員会の知名度が依然として低いことが明らかとなっている。アピールという点においては、それぞれの活動内容や役割が分かる名称と組織構成であることが望ましい。しかしながら、現状の各部会の下に設置されている小組織に「専門部会」や「WG」といった異なる名称が含まれているのが現状である。発足当時の考え方から現在までに活動内容が変化していることもあり、より分かりやすい組織名称とすることで認知度を上げることを目的として、委員会での意見照会等を通じ、現状の活動形態にあった部会・WG の名称見直しを実施することとした。

図 9.1 に名称見直し前後の組織構成図を示す。気象部会については、雪氷のみならず、斜面災害とも関連することから、独立した部会とするとともに、他部会の取り組みテーマに応じて連携する体制とした。

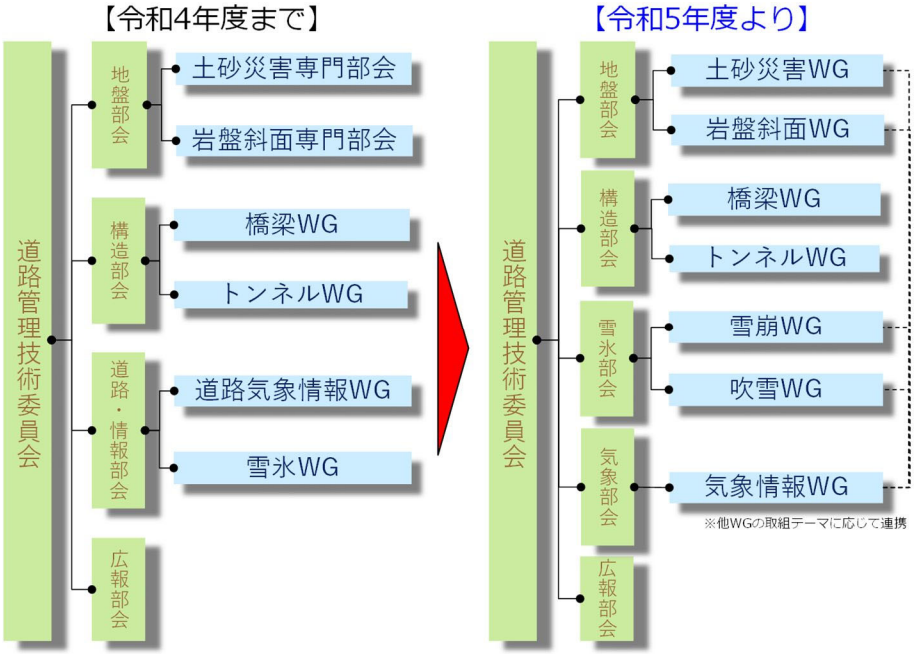

図 9.1　部会・WG 見直し前後の組織体制図

9.3.2　委員会ホームページのアクセス性向上に関する検討

道路管理技術委員会のホームページは、利用者を国道の道路管理者（開発局）と委員会関係者のみに限定しており、ユーザーID とパスワードを入力することでアクセス可能な状態である。一般的な検索サイトからアクセスすることは不可能であり、場所や時間を問わず簡易にアクセスできるといった利便性がないことから、必要な時に必要な情報を得ることは難しい状況である。この問題を少しでも緩和することを目的として、図 9.2 に示すように一般財団法人北海道道路管理技術センター（Rmec）のホームページからもアクセスできるように改良することで、アクセス性の向上を図ることとした。



図 9.2　Rmec ホームページからのアクセスイメージ

なお、この改良については、後述する活動成果の公開範囲の拡大と合わせて、令和 7 年度中に実施予定である。

9.3.3　活動成果の情報公開範囲の拡大に向けた検討

前述の通り、これまでホームページでの委員会活動成果の公開範囲は、国道の道路管理者（北海道開発局の道路担当職員）と委員会メンバーとして、委員（大学や研究機関などに所属する学識経験者），アドバイザー（寒地土木研究所の所属研究員），専門技術者（建設コンサルタント所属）を対象としてきた。

一方で、委員会の中で議論されている活動内容とその成果は、国道のみならず、地方自治体の道路管理にも有用なものである。

そこで、活動成果の活用・広報に向けて、以下の基本方針で検討を進めることとした。

- 現状の委員会メンバー内での浸透強化

  開発局には引き続き、委員会参加者からの働きかけや活動講習会での紹介など、アナウンスを継続する。合わせて、専門技術者が所属する企業等の組織に対しては、業務で活動成果を活用していただくことを念頭に、専門技術者を通じて組織内での情報発信を行う（取り扱いについては社外秘を想定）。

- 外部組織への公開範囲の拡大

  情報を公開する範囲を北海道や地方自治体の道路管理者などに順次拡大する。合わせて、道路設計やメンテナンスに関わるコンサルタントに対しても、各コンサルタント会社が所属する協会等を通して情報共有を進める。

また、活動成果の公開範囲の拡大に向けては、委員会の概要やこれまでの活動成果が集約・統合されていること、情報の管理が容易なこと等を踏まえ、委員会ホームページを柱として公開を進めることとした。

（1）アンケート調査

委員会メンバーのうち、建設コンサルタント等に所属している専門技術者の一部メンバーへの聞き取りでは、委員会ホームページのアクセスに必要な ID やパスワード（以降、アクセス情報と呼称）の取り扱いに関しても各社で対応がまちまちの状態であった。

今後の活動成果の活用に向けた第一段階として、委員会メンバー（専門技術者）が所属する組織への周知を図るため、現状把握を目的としたアンケートを実施した。

アンケートは各部会の代表幹事の方々に協力頂き、各社（組織）の一般職員を対象として実施し、代表的な意見として、各社（組織）単位で集計した。

アンケートに使用したヒアリング内容、様式を次頁に示す。

道路管理技術委員会の活動・広報に関するアンケート

記入者（代表者名）：

所属会社名：

【１】道路管理技術委員会の知名度について、お聞きします。
記入者の周りの一般職員（数人）に、ヒアリングした結果をお聞かせ下さい。

Q1. (一財)道路管理技術センターのホームページ【https://rmec.or.jp】を知っていますか？

- ○ 閲覧したことがある
- ○ 知らない または 知っているが閲覧したことはない

→ Q2.へ

Q2. 「道路管理技術委員会」はご存知ですか？

① どのような活動をしているか、ご存知ですか？

- ○ ほとんどの職員が理解している
- ○ 一部の職員は理解している
- ○ 理解しているのは、ごくわずかの職員のみ

→ ②へ

- ○ 全く知らない

⇨ Q3.へ

② 委員会を運営している機関（事務局）は、ご存知ですか？

- ○ (一財)北海道道路管理技術センターであることを知っている
- ○ 知らない または 誤って認識されている

⇨ ③へ

③ 「道路管理技術委員会」のホームページはご存知ですか？

- ○ 知っているし、閲覧したことがある
- ○ 存在は知っているが、閲覧したことはない
  - ○ ただし、活動成果の閲覧経験はある
  - ○ 活動成果の内容も知らない
- ○ 存在は誰も知らない

→ ④へ
→ Q3.へ

④ ホームページの内容（委員会の活動成果）はどの程度有効だと思いますか？

※複数回答可（活動成果の内容が分からない場合は記載しなくて結構です）

- □ すでに業務で参考にした実績がある
  - 具体的な資料名：
- □ 業務を進める上で、直接的に有効な資料がある
  - 具体的な資料名：
- □ その分野の情報・知識として参考になる
- □ あまり参考にならない
  - 理由をお聞かせ下さい：
    - □ 情報が古い
    - □ 有効な資料がない
    - □ その他：

→ Q3.へ

2024年9月 委員会メンバーコンサルタント用

【2】道路管理技術委員会（以下、「委員会」） 活動成果の利活用について、お聞きします。
記入者（委員会メンバー）が所属している会社（組織）での状況をお答え下さい。

Q3. 【現状】「委員会」の活動成果は、会社（組織）内でどのように取扱われていますか？

① 道路管理技術委員会ホームページ

- ○ ホームページのアクセス情報（URL，ID，パスワード）は周知され、誰でも自由にアクセスできるようになっている
- ○ ホームページのアクセス情報は、委員会メンバーの他に一部の職員（関係者）が知っており、アクセスできるようになっている
- ○ ホームページのアクセス情報は周知していないが、ホームページがあることは周知済みで、必要に応じてアクセス情報を提供している
- ○ ホームページのアクセス情報は委員会メンバーでのみ管理しており、会社（組織）内には共有していない
- ○ その他：

→ ②へ

② 委員会活動成果報告書　※冊子で発刊され、関係各位に配布されたもの

- ○ 発刊された報告書は組織内で共有されており、各自が自由に閲覧できる状態になっている
- ○ 発刊された報告書は組織内の一部（関係者）には共有されている
- ○ 発刊された報告書は委員会メンバーが保有しており、組織内には特に周知はしていない
- ○ その他：

→ ③へ

③ 「手引き」や「利用ガイド」など、活動成果報告書以外の文献
※ホームページの活動成果にPDF形式で掲載されています。また、一部は冊子の報告書に巻末資料として添付しています。

- ○ ホームページのアクセス情報は周知され、誰でも自由にアクセスできるようになっている
- ○ 新たな文献がまとめられ、ホームページに掲載された段階で、紙媒体やPDFなどで保存し、”オフライン”で共有している
- ○ 委員会メンバーが必要に応じてホームページにアクセスして、その都度必要な情報を取り出し、関係者に提供している
- ○ 特に共有などは行っていない
- ○ その他：

→ Q4.へ

Q4. 今後に向けて、委員会活動成果を会社（組織）内への周知・展開するにはどのようにするのが良いか、または委員会ホームページに関し、ご意見があれば記入をお願いします。

ご協力、ありがとうございました。

2024年9月 委員会メンバーコンサルタント用

アンケート結果は組織を 1 社単位として、以下のとおりまとめた。

【1】道路管理技術委員会との関連がない一般職員へのヒアリング（有効回答数：10 社）

Q1　一般財団法人 北海道道路管理技術センターのホームページ（https://rmec.or.jp）を知っていますか？

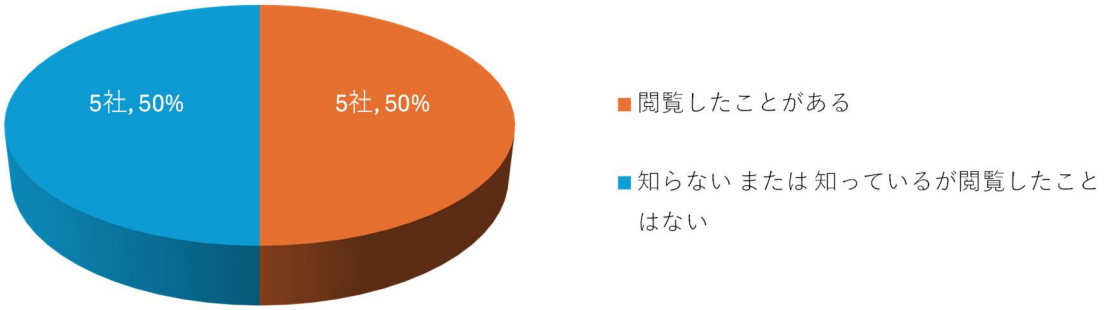

図 9.3　Rmec ホームページからのアクセスイメージ

Q2　「道路管理技術委員会」はご存知ですか？

①どのような活動をしているか、ご存知ですか？

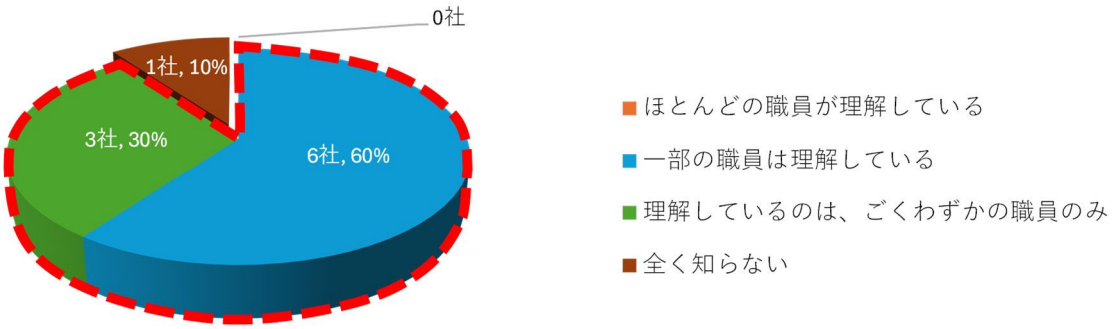

図 9.4　Q2①回答結果

（①で「全く知らない」以外の回答をした組織に対して）

②委員会を運営している機関（事務局）はご存知ですか？

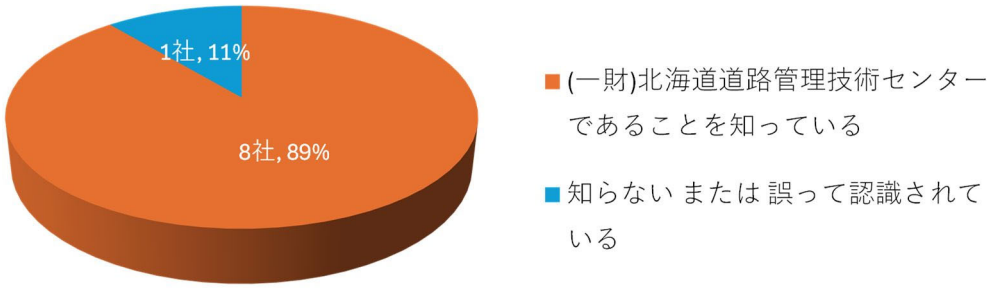

図 9.5　Q2②回答結果

④ホームページの内容（委員会の活動成果）はどの程度有効だと思いますか？（複数回答可）

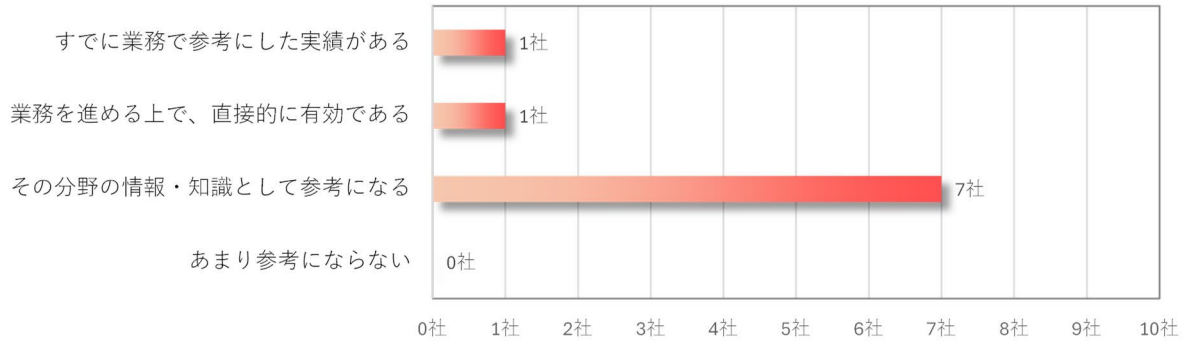

図 9.6　Q2④回答結果

※1　すでに業務で参考にした実績がある

具体的な活動成果：　『北海道の雪崩に関する道路管理の手引き（案）』

※2　業務を進める上で、直接的に有効である

具体的な活動成果：　『道路防災マップ』

【2】委員会メンバーに所属している会社（組織）での状況をヒアリング（有効回答数：9 社）

Q3　【現状】委員会の活動成果は、会社（組織）内でどのように取り扱われていますか？

①道路管理技術委員会ホームページのアクセス情報

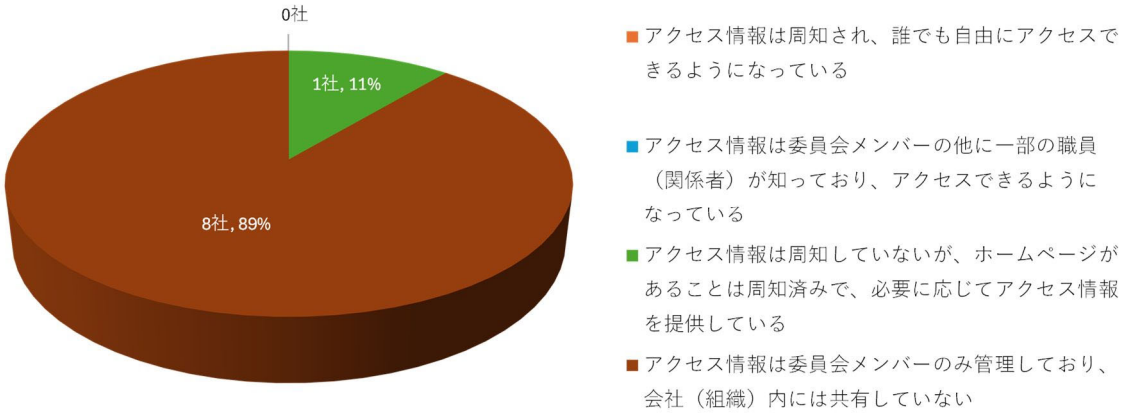

図 9.7　Q3①回答結果

②委員会活動成果報告書　※冊子で印刷され、関係各位に配布されたもの

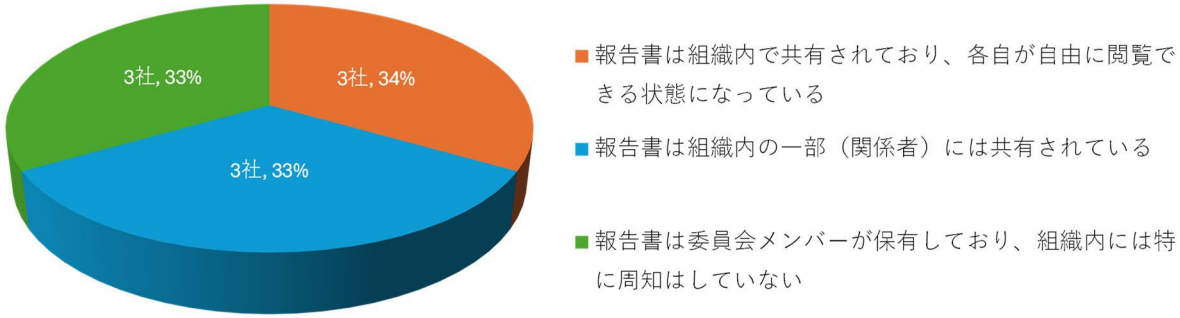

図 9.8　Q3②回答結果

③「手引き」や「利用ガイド」など、活動成果報告書以外の文献
※ホームページの「活動成果」内に PDF で掲載されているもの，また一部は冊子の報告書に巻末資料として添付されているもの

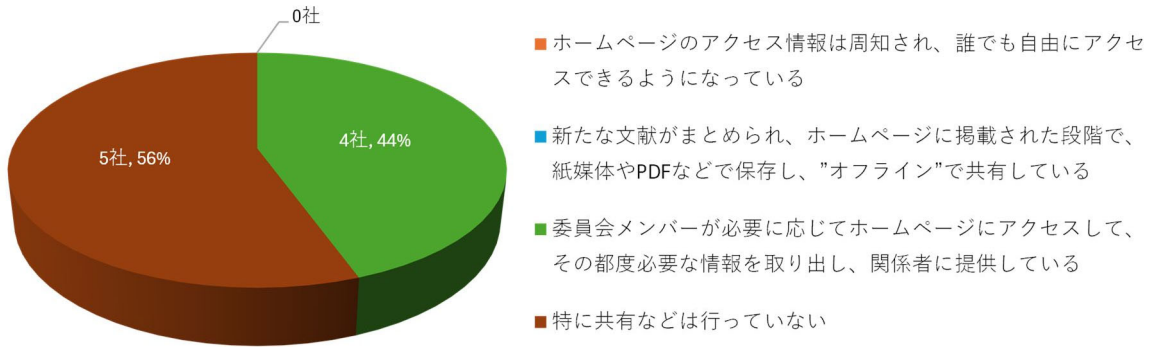

図 9.9　Q3③回答結果

Q4　（自由記入回答）　今後に向けて、委員会活動成果を会社（組織）内へ周知・展開するにはどのようにすればよいか、または委員会ホームページに関し、ご意見があればお願いします。

【周知・展開について】
- *ID やパスワードが必要なページは、委員会メンバーのみのアクセスにとどめてきた。*
- *守秘義務と扱う内容が開発局内の資料もあることから、組織内への周知はできないと思っていた。組織内での閲覧が正式に可能になれば、関連情報を含め得るものは多いと考える。*
- *委員会の成果を会社全体に周知して良いとの公式発信はないと認識している。公式な了承を頂ければ、全社的に周知したい。*
- *これまでは委員会後の資料の回覧だけで済ませていたが、回覧時にホームページへのアクセス情報を通知することで周知徹底を図れば良い。*
- *閲覧環境を改善するため、Rmec のホームページから ID，パスワードを入力して委員会ホームページへアクセスするようにしてはどうか。*

【ホームページに関する意見】
- *委員会成果は 3 年ごとに回覧されているため、成果（紙媒体）の回覧のみでも良い*
- *新情報の公開時にメールにて配信（委員会メンバーを通じて組織内へ展開）*
- *委員会メンバーを通じて活動成果の概要版を年 1～2 回程度作成し、各社（組織）内へ周知･展開を図れば、委員会活動を知るきっかけとなる*
- *活動成果に掲載されている写真・図表が公開可能かどうかを確認する必要がある*
- *運用のルールがあれば、社内への周知・展開がしやすくなる*

アンケート結果を踏まえ、今後の対応方針について以下のように整理した。

- 委員会メンバーが所属する会社(組織)における道路管理技術委員会の知名度としては、委員会に関係していない一般職員の中では低く、限定的であった(存在を知らない職員が多い)。

→ 委員会について周知・展開することで、活用の場面を拡げることができる可能性が高いことが確認された。

- ホームページの存在も同様に、非公開の取り扱いであると認識しているメンバーが多く、情報をメンバー内に留めていたことが確認された。

→ 委員会メンバーから所属組織への周知・展開方法（ルール）を確立するとともに、ホームページへの導線を整備（Rmec ホームページからのリンクやメール配信，委員会報告書・小冊子の活用等）することで、利活用の促進を図ることとする。

(2) 資料の分別と公開範囲のレベル分け

公開範囲については、委員会活動成果の公開度合いに応じ、以下のような 3 段階のレベルを設定した。

①レベル１　非公開を前提とした情報を含む全ての資料が閲覧可能
　　…非公開を条件として提供された情報や審議途中の情報を含む資料など

②レベル２　一部限定公開可能な情報を含む資料まで閲覧可能
　　…関係者への確認が必要な資料などの特殊な場合を含む

③レベル３　一般公開可能な資料のみ閲覧可能
　　…すでに冊子として配布されている資料など

委員会ホームページの公開範囲拡大の第一段階では、公開レベルをレベル１とレベル３の 2 段階にて運用することとした。

今後追加される活動成果や資料の性格により、必要に応じてレベル２を追加運用することとした。

委員会活動成果を含む各種資料と開示レベルの対応表を表 9.3 に示す。レベル１は現在の委員会メンバー限定で運用されている範囲、レベル３は国道以外の道路管理に携わる関係者を含め、一般公開（ユーザー認証は不要）とする範囲である。

表 9.3　道路管理技術委員会ホームページの構成と掲載情報の公開レベルの設定

ページ	掲載内容の概要	開示レベル（ﾛｸﾞｲﾝｾｷｭﾘﾃｨ）		備考
		レベル 1	レベル 3	
HOME				
① トップページ	「ようこそ」 お知らせ（ホームページの更新内容）	●	○	
道路管理技術委員会について				
② 委員会設置要領	委員会設置の経緯，委員会設置要領	●		
③ 委員名簿	メンバー一覧（名前と所属）※年1回更新	●		
④ 幹事会名簿	〃	●		
⑤ アドバイザー名簿	〃	●		
⑥ 専門技術者名簿	〃	●		
活動概要				
⑦ 委員会の活動について	部会の構成，活動テーマ等の説明	●	●	
⑧ 活動成果	委員会活動報告書（その1～8）	●	●	
	ガイドライン，ハンドブック等	●	●	
	現地調査報告書，現地調査報告写真集	○		
	雪氷部会-暴風雪道路災害アーカイブ	●		
	気象部会-気象用語解説動画	○		
⑨ 委員会資料	委員会プレゼン資料一式	●		
⑩ 委員会議事抄録	委員会議事抄録	●		
道路防災マップ				
⑪ WebGIS	地すべり，活断層，津波浸水予測， 火山ハザードマップ，噴火警戒レベル， 急崖斜面斜め空中写真	●		※急崖斜面斜め空中写真は非公開を条件に入手･整理。その他は一般に公開されているものを収録。
当サイトについて				
⑫ 当ホームページについて	閲覧時の注意事項，プライバシーポリシー	●	○	一般公開用の規約を作成
お問い合わせ				
⑬ 問い合わせフォーム	委員会ホームページに関するお問い合わせ	●	○	
出欠確認ページ				
⑭ 幹事会 出欠確認	※年2回 掲載（通常は非表示）	●		
⑮ 委員会 出欠確認	〃	●		

●： 既存のコンテンツを流用
○： 新たに作成

※令和 6 年 12 月現在

9.3.4　委員会ホームページの内容拡充

（1）吹雪アーカイブの統合（雪氷部会成果）

雪氷部会吹雪 WG で検討が行われていた暴風雪災害に関する成果を委員会ホームページに導入した（吹雪アーカイブの詳細は、**8. 暴風雪災害による影響と対策**を参照）。

暴風雪による道路の災害事例として、平成 27 年度から CCTV カメラの画像を蓄積したものがアーカイブ化されており、社会的影響が大きかった複数の事例を閲覧できるシステムである。

システムでは、低気圧の進路によるパターン分けがされており、複数の進路に対して、当時の気象状況や全道のカメラにおいて算定された視界レベルを時系列的に表示することができる。

すでに吹雪 WG で契約されているレンタルサーバー上で公開されており、気象情報 WG との連携により、このアーカイブサイトの URL が記載された開発局関係者への冬期間のメール配信が行われている状況である。

この成果はホームページ上で閲覧可能な資料として作成されているため、今後の管理運用に向け、本業務にて委員会ホームページに統合するものである。

今後は、吹雪 WG による情報の更新を委員会ホームページ側で行う体制とする。

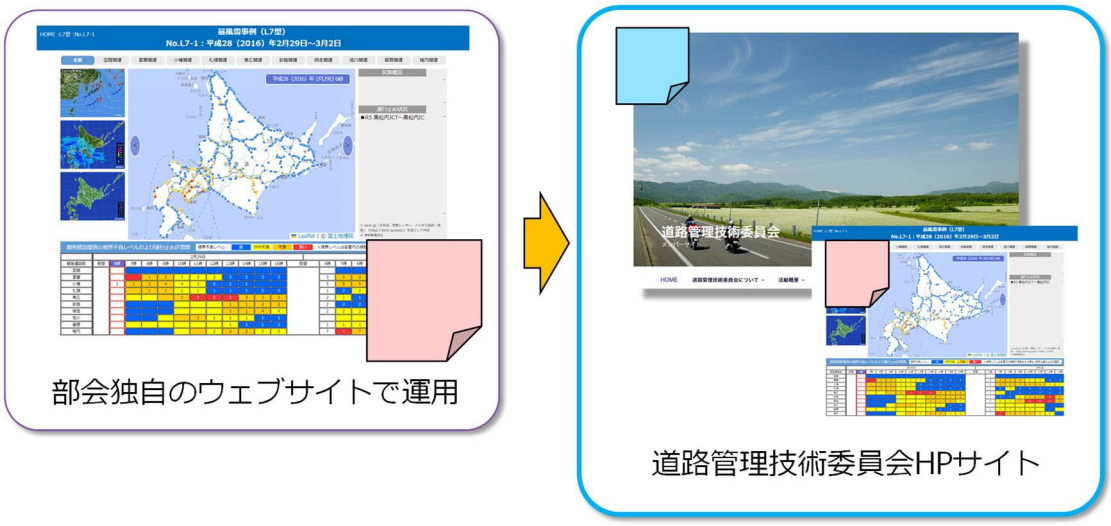

図 9.10　アーカイブサイトの統合

道路管理技術委員会のホームページはメンバー限定のサイトであり、アクセスにはユーザー ID とパスワードによる認証が必要となる。一方のアーカイブサイトは、前述のとおり不特定多数の受信者に対するメールにリンクが含まれており、認証なしでアクセス可能な公開サイトである。このため、委員会ホームページ内を認証が必要な領域と不要な領域とに分けることで、2 つのサイトを両立させる方針とした。

さらに、利用者がスムーズに行き来できるように、両サイトのページ内に相互リンクを設置することとした。

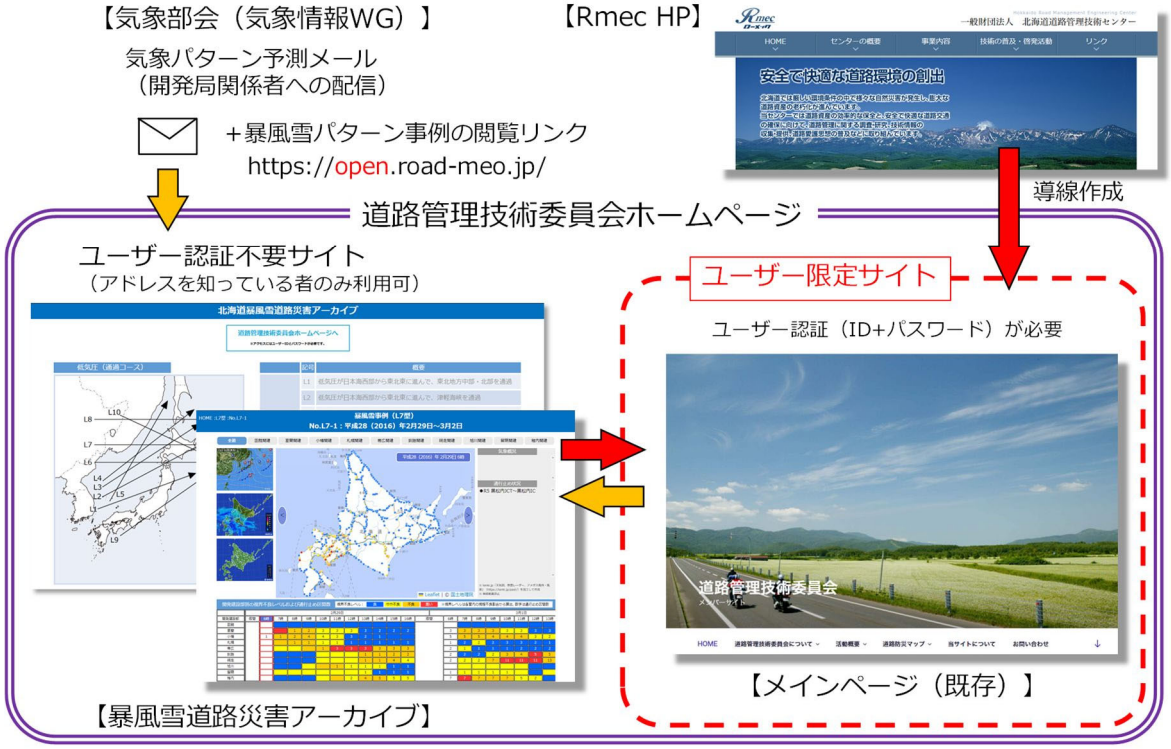

図 9.11　委員会ホームページ内のサイト構成

（2）気象解説動画（気象部会成果）

気象部会の活動において制作された気象解説動画をホームページに追加掲載した。動画は Youtube 上に登録したものを埋め込む形で、活動成果の中に追加することとした。

動画は、以下の計 5 本である。

■悪天の原因別解説
①北海道の大雨パターン
②地形性降雨
③爆弾低気圧

■雨の降り方別解説
①線状降水帯
②集中豪雨



図 9.12　ホームページ表示状況

9.4　今後の活動方針

道路管理技術委員会は、道路管理に求められる多様ニーズに応じて、道路ストックを常時良好な状態で適切に活用・保全していくための方策について、各分野の専門家により議論される場である。

広報部会は道路管理に携わる関係者に対し、委員会で審議された活動成果を発信・情報提供を行う役割を担っている。今後も各部会・WG での活動成果を効果的に広めていくための活動を行っていく計画である。今後の主な活動テーマは以下の通りである。

①委員会活動成果の公開範囲の拡大（一般公開用サイトの開設）
②委員会ホームページを通じた道路管理に役立つ幅広い情報の発信、拡充